

## 第2回 一宮の魅力ある海岸づくり会議 議事メモ

日 時 平成 22 年 9 月 19 日（日） 13 時 00 分～16 時 00 分

場 所 一宮シーサイドオーツカ

### 会 議 次 第

#### 1. 開会

事務局から注意事項など開会のあいさつをした。

#### 2. 第1回開催結果概要

事務局から第1回の会議結果について資料-1を参考に説明した。

会議結果について質問がないか近藤会長から出席者に問いかけた。

第1回会議時に昔から一宮に住んでいる方と移住してきた方との間で対立があり摩擦が生じた事についてお詫びし、他の出席者はこれを受け入れた。

近藤会長から会議趣旨について再度出席者全員に確認した上で、次の委員からの現状報告に議事を進行した。

#### 3. 委員からの現状報告

##### ① 秋山委員

スナメリ、ミユビシギ、ウミガメなどについて説明があった。

- ・ 秋山委員は 1974 年から干潟の調査のために毎年一宮を訪れていた。
- ・ 現在までに 1000 種類以上の生物に出会ったが、特に、スナメリとシギ、ウミガメについて研究していた。
- ・ 1000 種類の生き物の内、100 種類が環境省と千葉県指定のレッドデータブックの絶滅危惧種である。
- ・ ミユビシギは北極で繁殖して、日本を經由し、そしてオーストラリアへと渡るため、一宮海岸はミユビシギの国際空港のような役割を果たしている。
- ・ また、南九十九里浜には、いすみ根（器械根）と呼ばれる磯根が存在する。このいすみ根は大量の有機物を生産しているため、生物の生息環境として重要な役割を果たしており、このいすみ根の存在により、多様な生物がそれぞれ水深ごとに段階的に分布して生態圏を形成している。
- ・ 1994 年からの 15 年間で、211 のウミガメを確認しており、その 60%は産卵できずに U ターンしてしまう。
- ・ 一宮海岸に上陸するウミガメの上陸数が減少傾向にあること、蛇籠（大型

布団かご) の設置などによってウミガメが産卵できなくなっている。

- ・ ウミガメが卵を産むのに最適な場所は、海岸の植生帯であることから、海岸保全を考える上で、鍵となるのは、海浜植物である。

## ② 齊藤委員

齋藤委員の代理で7～8号ヘッドランド(以降、HL)間で地曳き網漁をしている伊東さんから地曳き網の仕組みと現状について説明があった。

- ・ 昔は、船を2艘使って網を大きく張っていたが、HLの建設によって1艘で狭い範囲に網を張るようになった。
- ・ 今年は、時化がなく、土用波も来ていない。このことから、捕れる魚が変わってきている。今までだったら、この時期に小さいアジは捕れなかったのに今年は採れている。
- ・ また、今回の会議趣旨でもある魅力ある海岸づくりを考えた上で地曳き網漁がどう在るべきかについて、皆さんの意見を聞きたいと思っている。

## ③ 中村委員

サーフィンについて、DVDを用いてサーフィンに適した波やそれぞれの名称などの説明があり、その後、一宮の各サーフポイントの紹介や日本のサーフポイントとして有名な釣ヶ崎海岸(志田下ポイント)、縦堤と横堤の設置によって発生する流れなどについて説明した。

- ・ 志田ポイントは、太東崎からのうねりがいすみ根によってシフトし、そのうねりの影響を最初に受ける場所であるため、波が他とは異なり、サーフィンに適した波が来襲するポイントである。そのために、頻繁にサーフィンの大会が開催され、世界大会が開催されるほどの場所である。
- ・ 一宮海岸のサーフポイントは縦堤が建設されるようになってから活気づいた。
- ・ これは、縦堤の直近に発生する離岸流がサーファーにとっては沖に出やすい流れとして利用されているためである。
- ・ しかし、5号HLのように横堤を建設してしまうと、波がブレイクする位置が遠くなってしまい、サーフィンがやりにくくなってしまう。
- ・ 6号HL、8号HLでは、縦堤と横堤の間で強い流れが発生しており、初心者のサーファーは流されることもある。
- ・ 茨城県では、事故の対策としてHL周辺を立入禁止区域にしている。一宮も茨城県と同じようにHL周辺が立入禁止になってしまうのではと懸念している。

#### ④ 近藤委員

近藤委員が考える魅力ある海岸とは、一体どういう何なのかについて、説明があった。

- ・ 2、3号 HL の砂浜は、侵食対策を実施しているため、昔の 100m までとはいわないが、十分な砂浜が再生するのは確かである。
- ・ しかし、砂浜を広くしただけでは魅力ある海岸とは言えないことから、「エコ海岸」をキーワードに、整備を行う必要があると考えている。
- ・ 例えば、風力発電やソーラー発電により電力を作るなどである。
- ・ また、海の家を無くし、背後の保安林も防砂機能上問題がない範囲まで減らして、サーフショップ、コンビニ、海の駅などを作ったり、地曳き網保存協会の活動を夏場だけでなく年間を通して実施し、観光の目玉にしたり、なぎさの交番や、サーファー用に波状況をライブ中継できるカメラなどを設置する案などが考えられる。

#### 4. 侵食対策について（千葉県）

千葉県から一宮海岸の侵食対策について、現況と HL の整備状況、当面の整備優先順位及び本年度の養浜について説明した。

- ・ 今まで、侵食対策として、離岸堤、ヘッドランド、養浜を実施してきた。
- ・ 6号ヘッドランドの横堤の延伸、8号ヘッドランドの縦堤の延伸工事の優先順位が高いと考えている。
- ・ 6号ヘッドランド横堤の延伸が必要なのは、縦堤前面部の海底の洗掘を防止することによりコスト縮減を図ることと、縦堤前面部の保護のためである。
- ・ 8号ヘッドランド縦堤の延伸が必要なのは、横堤と縦堤が未接続の部分で、潮の流れが発生し、砂の流出が懸念されるためである。
- ・ H22年度も養浜を行うとともに、養浜の効果発現に有効である小突堤を30m延伸する予定である。

#### 5. 意見交換

これまでの報告内容について近藤会長が要点をまとめ再度確認した。

5分休憩後、意見交換。

以降、対話形式で議事メモをまとめる。

(近藤会長)

意見交換ではどのような形でもよいので、これまでの報告を含めて総合的にどう考えたらいいかなどを意見交換したい。第三回では整備の方向性を決めたいと考えているので、その前段として会議のテーマとの整合性も考慮して、意見交換したい。

(宇多副会長)

個別の摩擦は後回しにして、一般的な話をすると、千葉県が計画をやめてしまうと、国からの予算がもらえなくなる。

計画の変更について、議論はいくらでもできるが、一度国に計画書を提出しているため、計画を変更する場合には、技術的な理由や地元住民の意見など、国に対してしっかりとした理由が説明できるようにしなければならない。

(近藤会長)

行政と地元住民の在り方について清野委員の意見を頂きたい。

(清野委員)

まず、前回悪くなってしまった関係を修復できたことは良かった。

また、各委員の報告も地元ならではの話が多く貴重だった。皆さんが一宮海岸のエキスパートという意味で、今後も情報提供をして欲しい。

九十九里浜の侵食問題は、全国的にも有名で、私が運営委員になっている宮崎のなぎさ交番のときにも「九十九里はどうのなったの」と聞かれる。

(近藤会長)

サーフィンの立場においては、突堤の形状や規模などをどう設計したらよいか。生物の立場においては、養浜を行う上で砂の大きさや質などをどうしたらいいのか。また、利用の立場においては、2,3号HL間を重点的に、海水浴場として整備しつつ、初心者のサーファーが利用できるような形でも考えていこうという観点がある。そして、漁業者の立場からの突堤のあり方をどうしたらいいのか。

以上を踏まえたうえで、それぞれの観点から在り方について議論して頂きたい。

(小松委員)

茨城県鹿島灘では、HL周辺で発生する離岸流によって、水難事故が多発したことを受け、HL周辺を立入禁止区域に指定している。一宮でもHL周辺が立入禁止区域にされてしまう可能性がある。しかし、以前一宮で行ったアンケート調査の結果では、海岸を利用したいとの要望が大半であった。

このことから、離岸流を止めるような構造物を考えていただけないかと思っている。

(宇多副会長)

HLに関して、サーファーとしては、どうしたいのか聞きたい。絶対にHL設置を認めないのか。それとも、縦堤だけは良しとするのか。

ただ、出来ているものを壊せ、というのは、別問題があって難しい。このことは理解して欲しい。

また、地曳き網をしている伊東さんとしてはどうなのか。地曳き網漁をする上でHLが無い方が良いのか。

(伊東さん)

侵食対策はしなければならないと思っている。ただ、地曳き網をするにはHLの間隔は、広い方がよい。

(宇多副会長)

いろいろな立場はあるけれども、侵食対策はしっかりとやってくれということだと理解した。

(中村委員)

縦堤は、サーファーが沖に出やすい離岸流が発生するので問題無いが、横堤はシーズンによって波が立たなくなってしまうので、好ましくない。

(宇多副会長)

縦堤を伸ばすことについては、代表の人だけでなく、サーフィンをやっている皆さんから理解が得られると思って良いのか。

(中村委員)

理解が得られると思う。

(宇多副会長)

千葉県は、国との関係の中で、ヘッドランドを完成形まで作らないといけないのか。

(千葉県)

6号HLについては、昨年度、先端保護として横堤38mを実施しているがまだ不十分であると考えている。しかし、200mの横堤ありきの話ではないことを理解して欲しい。

(宇多副会長)

もう一点。太東漁港側に砂が流れ込んだら困る。このことから、太東漁港に近い箇所は、少し粗めの砂を養浜するなどの案を考えるべきである。

(近藤委員)

宇多副会長の意見に付け加えて発言したいことがある。

2、3号HLの間の砂浜がどうしてあの形状を成しているのかは、離岸流が小さくなったからである。砂浜幅が広くなれば、離岸流は発生しなくなる。砂浜幅を確保するためにはHLが必要になってくる。

(近藤会長)

秋山先生に、ウミガメの産卵と砂の大きさが関係あるのか、聞きたい。

(秋山委員)

産卵後のウミガメの卵は地中に埋まっているため、コガメがふ化するためには通気性と保水性が重要になってくる。砂とウミガメにはそのような関係がある。

(宇多副会長)

太東漁港の南側に砂浜が形成されているが、そこではウミガメは産卵しないのか。その砂はウミガメにとって問題無いのか。

(秋山委員)

太東漁港の南側の砂浜には、今まで、1例だけ上陸したが、産卵しないでUターンしてしまった。しかし、太東漁港南側の砂は、もともと九十九里に供給されていた砂であり、私が見た限りでは、いい砂だった。一宮川河口の堆積土も良いと思う。シルトが多い場合は、1,2年雨ざらしにしておけばいい。

(釣区区長代理)

先日、朝日新聞で茨城県の海岸において碎石投入によって砂浜が回復したとの記事を見た。この記事では、碎石投入が効果的で、HLは効果的ではないと書いてあり、非常に印象に残った。その記事からすると、一宮でヘッドランドを整備しようとすることは、矛盾しているように感じる。

(宇多副会長)

鹿島灘ではHLを建設してきた。しかし、結果的にはHLによって砂浜を回復させることはできなかった。しかし、HLが設置されている上で、さらに粗粒材を養浜した

から、40～50mの浜が戻った。九十九里では、礫材による養浜を行うのではなく、太東漁港の南側にある少し粗めの砂を入れるなど、九十九里浜の特有を考慮した対策案を検討した方が良いと思う。

(釣区区長代理)

私はHLの形状を変えたりする工夫をする必要があると思う。

(清野委員)

もう少しHLの形状について具体的な議論を進めたいと思う。  
先端が崩れないようにするには、マッチ棒の用に先端だけくるむ形ではだめなのか。  
また、HLは設計上、天端高さを高くしなければならないのか。

(宇多副会長)

天端高さを低くして海面から構造物が突き出ないように潜堤で対策する方法もあるが、潜堤の場合、船の往来に注意しなければならない。船だけに限らず、サーファーにとってもサーフィンしている最中に危険性が及ぶので注意しなければならない。実際に潜堤で検討する場合には、設置した際の波浪特性を事前に把握する必要があるだろう。

(清野委員)

ウミガメにとってHLが何基も建設されている砂浜はどうか。

(秋山委員)

現在のヘッドランドくらいの長さは、ウミガメには余り苦にならないと思う。むしろ、私が一番問題にしているのは、カゴマットである。ウミガメだけのことを考えると、形状、材質、配置の全てが間違っている。形状は、砂浜にあわせて円弧にすべきだし、砂浜に石を持ってくるのがナンセンスである。また、ちょうどウミガメが産卵するところに護岸が配置されている。

また、HLの両脇に堆積している砂には、植生が全然発達しておらず、生態学的にまったく意味がない。なぜ、そうなのかを考える必要がある。

(宇多副会長)

カゴマットは災害復旧工事で設置したものである。背後が保安林で、守るべきものが安価であることから、工費が最も安いカゴマットが採用されている。県も、それを進めざるを得ないつらい思いがあったと思う。

(清野委員)

ウミガメが上がるようなスロープやハマヒルガオが育つようなスロープがあれば防災上も効果があると思う。ウミガメやハマヒルガオなどを復活させるようにすることが大切だと思う。

2,3号HLは人の利用が多い場所であり、4~6号HLはウミガメの上陸・産卵場所、7,8号HLは地曳き網漁の場所というように自然にゾーニングされているように思える。

(近藤会長)

さまざまな意見があったが、一宮は侵食されている海岸なので、どう防護するのが第一の目的であり、防護、環境、利用という3つの観点で整備しないといけない。最後に町長から一言頂戴したい。

(町長)

一宮町に、利用に関するゾーニングをするための諮問委員会を設置したいと考えている。

離岸流の問題については、事故などがないように安全な工法の検討を担当者、研究者の方に御願いたい。

また、本日2回目の会議だが、それぞれ立場が違う中で計画が進められたことに感謝している。

(商工会)

利害関係者なので発言を控えていたが、今我々が考えるべき問題は侵食問題についてどう対策すべきかである。皆で楽しい海岸づくりの提案をするのも良いが、優先事項としては侵食対策を先決すべき。千葉県がこれまで侵食対策について頑張ってきていることをこの会議の出席者全員が理解すべきだと思う。

(近藤会長)

海岸を防護することに関して、ここにいる出席者は皆合意していると思う。ただ、HLの工法やデザイン(形状)などが議論の課題になっている。これは、出来る範囲内で変更していく。次回は、今回の意見を基に県でいくつかの案を作成し、メリット、デメリットを整理して、それを基に次回の委員会で工法を決める方向で進めたい。

(事務局)

次回の会議は、できるだけ年内の12月に開催したいと考えている。詳細な日時は追って連絡する。

(16区区長)

12月では遅いと思う。県がやっているように、8号HLの縦堤を伸ばすという方向で考えた方がいいのではないか。

(近藤会長)

結論を出さなければ行けないリミットが12月ということなので、最も良いと思われる案を12月まで検討し、結論を出すこととしたい。

(事務局)

養浜については、既に漁業関係者との協議が整っている。養浜については、今回の会議の中で了解をいただきたい。

(会場から拍手あり)

(近藤会長)

皆さんの賛同を得たので、養浜は進めることにしたい。

12月の第3回会議では、今年度工事の進め方を決め、第4回会議では、次年度以降どうするかを検討していきたい。

事務局から閉会のあいさつがあり第2回の会議を終える。

6. その他

7. 閉会